

人命尊重マインド 養成支援プログラム

平成19年度文部科学省「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」選定



 岡山短期大学

岡山短期大学は文部科学省の 「新たな社会的ニーズに対応した 学生支援プログラム」に 選定されました。

M E S S A G E

■ 学生支援GPとは

学生支援GPとは、近年、大学等の多様な進学者の増加や教育内容の多様化や高度化などによる学生を取り巻く環境の変化や少子化、ニート・フリーターなどの様々な社会的課題などを背景に、学生支援においても、より一層の工夫・充実が求められ、学生支援の充実・体系化の観点から、国公立の大学等を通じ、公募の中から選定するという競争的な環境の下で取組の財政支援をしていく文部科学省の施策です。

また、選定を受けた取組は、学生の人間力を高め人間性豊かな社会人を育成するため、学生の視点に立ち、学長のリーダーシッ

プの下、入学から卒業までを通じた各大学等の総合的な学生支援のプログラムで、新しい発想や効果的な方法等によって特色ある優れたもので、他大学等の参考となり我が国の学生支援の充実に資するプログラムであるという評価を得たものとなります。

本学の幼児教育学科では、平成19年度の学生支援GPの選定に「人命尊重マインド養成支援プログラム」が認められました。このように他の短期大学と競争する文部科学省の大学教育改革支援事業の選定を平成17年度の特徴GPに続いて受け、幼児教育学科の教育実績は高い評価を得ています。



学長 原田 博史

■ 命の大切さを学び、子どもたちの心を育てる

今回選定を受けた「人命尊重マインド養成支援プログラム」は、本学の学生が人命尊重の精神を備えた人間に成長するよう支援する取組です。

この取組は、人命を脅かす事件・事故に係る社会的課題に 대응するものであると同時に、自尊感情の希薄な学生が自信をもって社会に出立する手助けをするもので、入学から卒業までの2年間をかけて次の第一から第四まで重層的に展開する活動によって構成します。

第一は、体験型学習を通して、社会人・保育者として求められる、人命を守るための知識と技能を習得する安全確保と救命

救急の研修活動です。

第二は、専門家からの多様なメッセージによって体験型学習の学びを深める命をテーマとする講演・シンポジウムの開催です。

第三は、新しく整備する「命の資料室」を拠点にした学生が自ら学ぼうとする姿勢を定着させる活動です。

第四は、学びの成果を紙芝居やオペレッタ等の形にし、幼児に向け発信する人命尊重の啓発活動です。

本学科から育つ全ての保育者に人命尊重の心を育成し、将来の日本を託す子どもたちに命を大切にする心が培われることを目指します。



幼児教育学科 主任教授 白神 厚子

1 大学の概要

基本情報

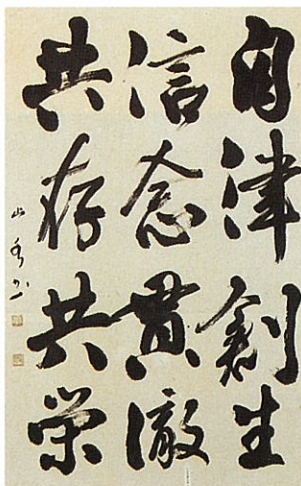
1951年に開学した岡山短期大学の教育理念は、自律創生・信念貫徹・共存共栄の教育三綱領の基、学生一人一人が強い信念を持ち、それぞれが志した学習目標を達成し、本学で修得した知識、技能および資格を活かした進路を確実に得、社会の発展に寄与する人材を育てることにあります。

幼児教育学科は、卒業と同時に幼稚園教諭二種免許状および保育士資格を取得する保育者養成を目的として1958年に設置した学科です。教育目標は、「地球市民」たる子どもの教育指導能力、情報化社会に相応しいコンピュータの活用能力、子どもに関する専門的知識と理解力を基礎とした実践的指導力、保育現場と家庭との十分な連携を図る能力の養成です。

本学科では毎年100%の就職率のうち90%以上が保育園・幼稚園等において活躍しています。



教育三綱領



自律創生

物事をしっかりと見極め、継続的な体験と努力により人間としての品格を蓄え、実践的な行動力のある人間として成長せよ。

信念貫徹

人間として成長することを自らの人生の目標として定め、本学での継続的な学びと努力で目標の達成を実現せよ。

共存共栄

グローバルな視点で、日本人として共存共栄の精神をもち、社会人として果たすべき役割を自覚し、自ら進んで世界の平和に貢献せよ。

学科の教育目標

- 1 「地球市民」たる子どもの教育指導能力の養成
- 2 情報化社会に相応しいコンピュータの活用能力をもった保育者の養成
- 3 子どもに関する専門的知識と理解力を基礎とした実践的指導力の養成
- 4 保育現場と家庭との十分な連携を図る能力をもった保育者の養成

学生支援GPとは

学生支援GPとは、文部科学省による大学教育改革支援事業の一つです。人間性豊かな社会人を育成する総合的な学生支援プログラムのうち、他大学の参考となる優れたプログラムが選定されます。平成19年度は全国から寄せられた272件の申請のうち70件が採択（採択率25.7%）。岡山短期大学は、平成17年度「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」に続いて採択されました。中四国の短期大学では唯一の採択です。

2 取組の意義

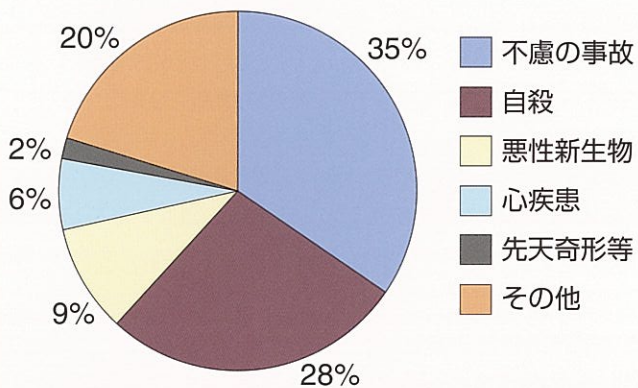
- 本プログラムは、学生が人命尊重の精神を備えた人間に成長するよう支援する取組です。
- 人命を脅かす事件・事故が頻発する現代社会からの要請に応えます。
- 自尊感情の希薄な学生が、自信をもって社会に出立する手助けをします。

社会的ニーズ

現代社会において、いじめ・殺人の低年齢化、若者の無謀運転による交通事故死亡者の増加など、人の存在価値、つまり「命」が軽んじられている問題があります。

このような問題に対して、将来を担う社会人を育成する大学においては、他者を尊重し、自他の「命」を大切にする人間の育成が強く求められています。

■ 図. 15～19歳の死因別割合 (平成17年)



(厚生労働省「人口動態統計」より作成)

学生のニーズ

本学学生に限らず、現代の学生は自分の能力を過小評価しがちです。そのため、生の人間関係を築くことに困難を感じ、学生時代に培うべき社会人としての自信を形成しづらい状況にあります。そのような学生に自尊感情を獲得させるためには、日々の学習活動に加えて、実際に社会に貢献できる知識・技能を習得させることがその近道だと言えます。

<苦しんでいる学生>

人間関係力に乏しい
自分に自信が持てない
自分を大切にできない

自尊感情の獲得

3 取組の概要

態度・行動

人命尊重マインド

知識・技能

認識・意欲

知識・技能

交通安全や救命救急などに関する正しい知識・技能。

認識・意欲

人命尊重の重要性を理解し、さらに自ら学び活動しようとする認識・意欲。

態度・行動

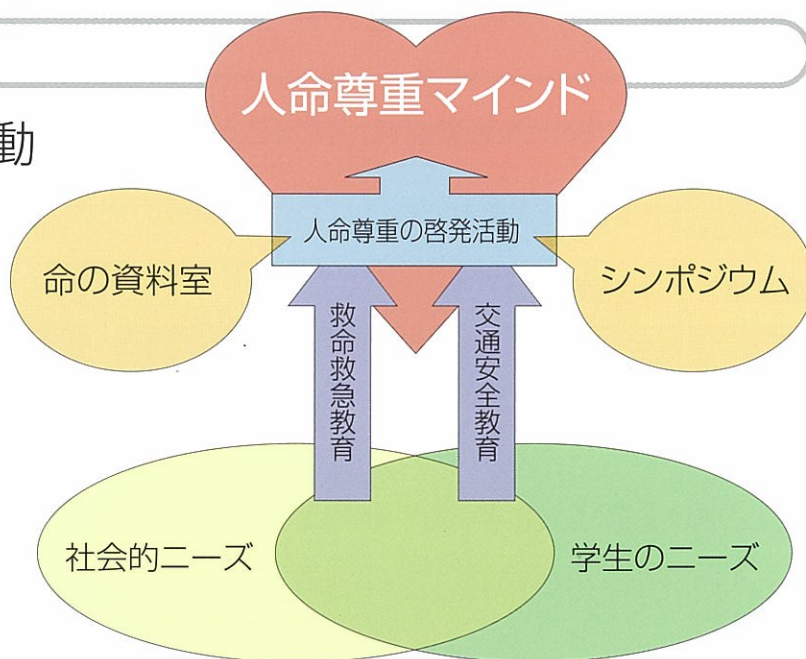
自分の力を社会の中で活かし、人命を守ろうとする能動的な態度・行動。

4 取組の内容

全体像

■ 重層的に展開する4つの活動

- 1 体験型学習である各研修によって、学生は、自他の安全確保・救命に貢献する自信と力を身につけるとともに、保育者としての責任感を形成することができます。
- 2 命をテーマとする講演・ワークショップやシンポジウムに参加することによって、人命尊重に対する認識・意欲を高めていくことができます。
- 3 学生の演習の場である「命の資料室」の利用によって体験型学習の成果を深化させるとともに、自ら学ぼうとする態度を獲得していくことができます。
- 4 啓発活動である保育施設での公演活動によって、学生は社会貢献の意義を実感し、保育者となる意欲をさらに高めることができます。



プログラム全体を通して、学生は、人命尊重の精神と、社会人・保育者となる自信を身につけ、有用な人材へと成長していきます。

実施計画 (平成19年度入学生)

1年次

- ◆交通安全教育宿泊研修(11月)
 - ・実技:制動訓練、スラローム走行など
 - ・講義:「交通参加者」の心得など
- ◆講演会・ワークショップ(2月)
 - ・交通事故被害に関する講演
 - ・交通安全教育関係者を招いてのワークショップ
- ◆救命救急教育講習(2月)
 - ・AHA(アメリカ心臓協会)による心肺蘇生法の講習
 - ・「ハートセイバーAED」認定カードの発行
- ◆「命の資料室」開設(11月～)
 - ・成人・幼児・乳児レスキューマネキンの導入
 - ・人命尊重に関する視聴覚教材及びAV機器の導入
 - ・保育施設における啓発活動の準備

2年次

- ◆「命の資料室」運営(4月～)
 - ・レスキューマネキンを使ったの救命救急法の習得
 - ・保育施設における啓発活動の準備
- ◆シンポジウム(5月・10月・2月)
 - ・5月のテーマ 「救命救急教育」
 - ・10月のテーマ 「保育施設における命の教育」
 - ・2月のテーマ 「成果発表会」
- ◆救命救急教育講習(随時)
 - ・応用的なプログラムの受講
 - ・幼児安全法など保育に役立つコースを用意
- ◆啓発活動(2～3月)
 - ・近隣の保育施設における公演活動
 - ・紙芝居などを通して「命の大切さ」を子どもたちに伝える

人命尊重マインドを備えた保育者

5 交通安全教育

研修予定

講義 だれもが「交通参加者」であることを意識させます。

実技 危険運転体験などを通じて、交通事故の怖さを感じることで、責任感を養います。

交通安全研修日程(予定)

	時間	内容
1日目	7:30	岡山短期大学出発
	12:30	鈴鹿サーキット交通教育センター到着 昼食
	13:00	開校式 実技(車両点検、乗車姿勢、慣熟走行) 適性検査(OD式運転適性検査) 座学(交通参加者とは)
	18:30	夕食
	22:00	就寝

	時間	内容
2日目	7:00	起床
	7:30	朝食
	9:00	実技(制動、反応訓練、バック、スラローム) 座学(幼児の交通安全教育)
	12:00	閉校式
	13:00	昼食
	14:00	鈴鹿サーキット交通教育センター出発
	19:00	岡山短期大学到着 解散

6 救命救急教育

救命救急講習の実施

保育現場に限らず、日常生活において事故の場面に遭遇したときに、適切な行動をとることができるようになるための講習です。

平成20年2月には、心肺蘇生法資格「ハートセイバーAED」取得のための講習を、1年次の全学生を対象に行います。その講習においては、心肺停止状態の人を救命するために必要な成人・小児の心肺蘇生法と自動体外式除細動器(AED)の使用法、成人・小児の窒息時の対処方法を学びます。



命の資料室を開設

衛生的でプライバシーを確保した“命の資料室”を設置し、救命救急講習、AED、レスキューマネキン、視聴覚教材などを通して日常的にその技術を修得し自ら学ぶ姿勢を身につけます。



7 取組の体制

人命尊重マインド養成支援委員会

委員長(学長)			
交通安全教育担当	救命救急教育担当	シンポジウム担当	命の資料室・評価担当
教員 学生ボランティア	教員 学生ボランティア	教員 学生ボランティア	教員 学生ボランティア
スーパーバイザー (岡山学院大学人間生活学部・キャリア実践学部教員)			

数々の活動を実施するために、上のような委員会を立ち上げました。学長を委員長として、4つの分科会を作ります。各分科会には学科教員と学生ボランティア数名を置き、諸活動について相談しながら計画・実践していきます。

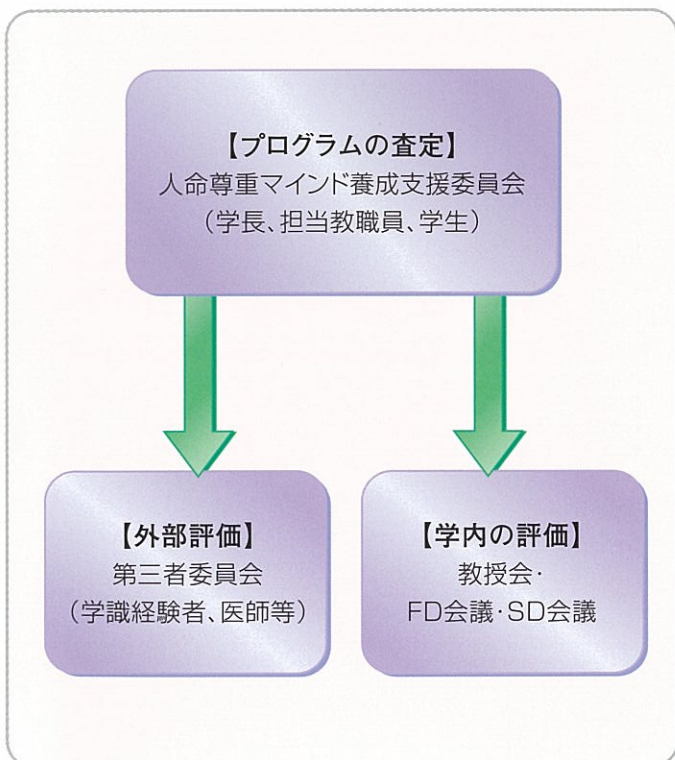
担当教員は、それぞれの専門分野における知識を生かし、各活動

がより有意義なものとなるよう計画します。定期的に会議を開催し、各活動の準備と実践、そして評価に取り組みます。

また併設の岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科教員・キャリア実践学部キャリア実践学科教員をスーパーバイザーとし、食教育やキャリア形成の観点から各活動に対する助言や評価を受けます。

評価体制

本プログラムによる学生の学習成果を測定し、活動全体を査定するために、下図のような評価体制を構築します。学内の評価はもとより、学識経験者などに依頼し、第三者評価を取り入れます。



8 期待される成果

来年度には、「人命尊重」をテーマにした紙芝居や劇などを制作します。それらの完成した作品を近隣の保育施設の子どもたちに見せ、「命」について考える機会にでもあります。

交通安全や救命救急などに関する正しい知識・技能、人命尊重の重要性に対する理解の上でさらに自ら学び活動しようとする認識・意欲、自分の力を社会の中で生かして人命を守ろうとする能動的な態度・行動、これらを獲得した学生は卒業後保育者となり、将来を担う子どもたちに「人命尊重マインド」を伝えるという大切な役割を果たしていくことが期待されます。





交通案内

倉敷駅よりバスで15分、天城小川經由児島行きにて本学前下車。

岡山短期大学

〒710-8511 岡山県倉敷市有城787
 TEL.(086)428-2651 FAX.(086)429-0323
<http://www.owc.ac.jp/> owc@owc.ac.jp
 携帯サイト <http://www.owc.ac.jp/i/>

男女共学